

## 「野方小学校の荒佐野棒踊り伝承活動の取組」

### 1 学校名

大崎町立野方小学校

### 2 学年・人数

4年・5年・6年（計50人）

### 3 日時・場所

#### (1) 練習の日時・場所

平成27年7月～9月 総合的な学習の時間（本校体育館）

平成27年9月16日（水）衣装合わせ・発表リハーサル

#### (2) 発表の日時・場所

平成27年9月27日（日）野方小学校秋季大運動会

平成27年10月3日（土）野方ふれあいふるさと祭り（野方グラウンド）

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

#### (1) 名称

荒佐野棒踊り（あらさのぼうおどり）

#### (2) 由来

約330年前に摂津・河内・和泉の三国（現在の大阪地方）から荒佐野の地へ移住した人びとの子孫から伝えられた。由来については、「農耕儀礼」、「朝鮮出兵の凱旋祝賀」、「防御・攻撃術の踊り化」など諸説あるが、一般的には五穀豊穡や無病息災を祈って踊られることから、荒佐野を開墾した人びとも新天地での安泰を祈願して踊るようになったと思われる。

#### (3) 構成等

踊りは、6尺棒（木製薙刀）を持った踊り手と3尺棒（木製刀）を持った踊り手の総勢24人が縦2列に並び前後4人1組で歌い手の歌う調子に合せながら、威勢のいい掛け声とともに棒を打ち合わせ勇壮に踊られる。

### 5 保存会や地域との連携の具体

児童数減少の影響（10年前の約半分）が顕著に出てきたのは運動会であった。児童は少なくなったのに出場する種目が多かったり、児童に休む暇がなかったりした。

そこで、学校としては「秋季大運動会」を盛大に開催できるように、棒踊り保存会や地域（野方公民分館）との連携・協力を推し進めてきた。まず、平成25年度は、4～6年の運動会表現種目に「棒踊り」を取り入れた。次に、平成26年度は、野方公民分館との合同運動会と称して、校区民が出場する3つの地域種目を設けるとともに、練習や準備から棒踊りの一層の充実を図った。そして、平成27年度は、公民分館が主体となって町の「一般コミュニティ助成事業」を受け、子どもたちの衣装（浴衣・帯・たすき・足袋・わらじ）を購入した。更に、地域（野方公民分館）との合同運動会2回目として、保護者・地域がより一体となったり次年度に反省点を引き継いだりできるように、運動会終了直後に、学校と隣接する野方農業改善センターにおいて、学校・保護者（PTA）、保存会、地域（野方公民分館）の合同で慰労会を行った。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

荒佐野棒踊りは、荒佐野七集落（佐土原，岡，岡之下，倉元，西谷，中小路，東中小路）に330年前から伝わる伝統芸能である。そして、三年に一度の三月，荒佐（照日）神社における荒佐春祭りで奉納される。しかし，近年は過疎化や少子高齢化が進み，荒佐野七集落だけでは踊り手の確保が難しい状況になってきた。そこで，「地域に根ざした運動会の活性化」と「棒踊りの継承」を目的として，保存会と学校が連携・協力を行うようにした。

まず，連携・協力の『体制』をしっかりとさせるために窓口を明確にしている。保存会側は，代表が窓口になり，保存会の会員の協力を取り付けるようにしている。学校側は，全体的には教頭が窓口になっているが，児童の練習計画や指導内容等，詳細の打合せは，体育主任や4～6年の担任が行い，児童が効果的・効率的に棒踊りを学習・練習できるように進めている。

次に，連携・協力の『場』の設定としては，2つの場面（ステージ）を考えた。場面（ステージ）1は，学校の授業での指導や運動会，野方ふるさと祭り等での発表である。場面（ステージ）2は，荒佐野春祭りに向けた練習や奉納の棒踊りである。ステージ2で，踊り手が不足した場合，ステージ1での情報や必要性に応じて，保存会は学校に踊り手確保の相談や勧誘の協力依頼を行っている。

## 7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



保存会の方の指導による体育館での練習風景



運動会前の衣装合わせ及び最終リハーサル



運動会で揃いの衣装を着て元気に踊る子どもたち



野方ふるさと祭りで保存会の方々と息を合わせて踊る子どもたち

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### 【4年児童】

- ・ 4年生からは，運動会で棒踊りをやります。初めての棒踊りだったけど，お父さ

んと踊ってとても楽しかったです。ただ、体育館でやった棒踊りの練習は、音がよく響いてやりやすかったけれど、校庭でやってみると音があまり響かなかったので、やりにくかったです。でも、運動会でお父さんと一緒に踊れて良かったです。

#### 【5年児童】

- ・ 一年前は、動きが細かかったり声を出すのが大変だったりしましたが、今回は大変だと思わなくなりました。体を動かして少しすると、暑いくらいになります。そして、保存会の方々とのお話がおもしろいです。
- ・ ちゃんと止めるところは止めて、払うところは払うところが難しかったです。そして、声を出すところを頑張りました。一番大切なところは、「アラ ソッ ソイ」と言うところです。4年生の時より上手になることができましたと思います。

#### 【6年児童】

- ・ ぼくが棒踊りを始めたのは4年生からです。運動会で踊ることがきっかけでした。初めて見たときは難しそうだと思いました。練習してみると、予想とは反対で簡単に覚えることができました。棒踊りには、長い六尺と短い三尺がありますが、ぼくは六尺の方です。みんなでやる練習は、楽しいので是非後輩の皆さんにも続けてやってほしいです。

#### 【保護者】

- ・ 小学生に棒踊りを教えて3年目になる。今年は自分の娘のいる学年を教えることになった。体にきつきを覚える年代に差し掛かってきたが、我が子とこの棒踊りを踊れることを楽しみに、これからも一生懸命教えていきたい。

#### 【教職員】

- ・ 本校の棒踊りも3年が経ち、運動会の中心的な種目になってきました。衣装も年々揃ってきて、本格的な踊りに近づいています。子どもたちや私たち職員にとって、地域の方々とふれ合える絶好の機会となっており、今後もより質の高い踊りができるようにしていきたいと考えています。

#### 【保存会】

- ・ 子どもたちに棒踊りを教える前は心配であった。夏の暑い時期に、体育館で一回90分の練習を4～5回で果たして大丈夫であろうか。しかし、その思いは杞憂であった。子どもたちの上達ぶりには本当に驚かされた。子どもたちと共有した時間は、私にとって何物にも代えがたい財産となった。地域に根ざせるよう努めたい。
- ・ 荒佐野春祭り棒踊り奉納に当たる今年、寒くても屋外での練習をしている。これまで小学校の運動会で、棒踊りを踊った中学生も参加してくれる。大人から子どもまで、元気よく伝統の棒踊りを踊ってくれる姿を見ると、嬉しくてしょうがない。奉納が終わったら、子どもたちをうんと褒めてやりたいと思う。そして、今後も末永く子どもたちに伝承していき、様々な機会に踊れるようにしていきたい。また、踊り手だけでなく歌い手（現在75歳から88歳の5名のみ）の伝承活動も視野に入れながら、活動の充実に図りたい。

#### 【地域の方】

- ・ 子どもたちが元気に踊る姿に校区のおじいちゃんやおばあちゃんたちは喜んでいきます。子どもたちの元気がみんなの元気となり、地域の活性化にも繋がります。引き続き頑張ってもらいたい。